北海道

赤れんが

北海道立文書館（もんじょかん）報　No.57
2022（令和4）年4月

令和3年度の文書館運営状況について

前年度に引き続き令和３年度も、各公共施設では新型コロナウイルス感染症防止の対応に追われましたが、当館も例外ではなく、次のような対策を取りました。

◎臨時休館

緊急事態宣言などに伴い、令和３年５月16日（日）～６月20日（日）と８月14日（土）～９月30日（木）の２回、臨時休館しました。

臨時休館中は資料を閲覧していただくことはできませんでしたが、職員は出勤し、各種お問い合わせや資料の複写依頼に対応しました。ただし、感染拡大防止のための出勤抑制を行ったため、回答等に時間がかかってしまうこともありました。

◎開館時の対策

利用者の来館を確実に把握するため、前年度の令和２年７月８日（水）から文書館玄関の自動ドアをオフにする方式をとりました。利用者にはインターホンで来館したことを知らせていただき、職員がその都度ドアを開け、手指消毒・検温・連絡先記入をお願いしました。

施設全体については、１日３回、窓開け換気とアルコール消毒を行いました。

閲覧室については、職員が座るカウンターの前に飛沫防止シートを設け、飛沫感染のリスクを避けるようにしました。

また、利用者同士の間隔を確保するため利用可能な閲覧席を減らし、現在は7席にしています。

令和3年度の行事開催結果報告

【古文書解読講座】

入門を７月17日（土）に、初級を８月28日（土）に開催しました。受講者は入門と初級合わせて27名でした。

入門は、古文書を読むための基礎知識を説明する内容、初級は、当館所蔵の開拓使文書などをテキストとして解読し、背景を説明する内容でを実施しました。

【古文書教室】

令和３年11月６日（土）に礼文町で、令和４年２月23日（水・祝）に厚岸町で開催しました。

教室は、文書館職員による古文書の基礎知識に関する講義と地元講師による地域の歴史に関する講義の２部構成で実施しています。

礼文町では、髙橋学芸員が礼文神社の資料を題材に、神社のお祭りの起源と変遷について講義をしました。

厚岸町では、菅原学芸員が移住者の日記を題材に、明治初期佐賀藩分領支配期の厚岸について講義をしました。なお、新型コロナ対策で、文書館担当分はリモート講義となりました。

参加者数は、礼文町では14名、厚岸町では10名でした。

【施設見学】

前年度から始めた月末休館日の施設見学会は、令和３年度は実施できませんでした。

ただし、随時見学は受け付けており、団体・個人合わせて42名の方が文書館を訪れました。

【文書等保存利用研修会（補修）】

資料補修の知識と技術を身につけていただく研修会を開催しました。

前年度は新型コロナの影響で大半を中止しましたが、令和３年度は６回実施することができました。

講師は補修業務の経験豊かな文書館元職員の方にお願いし、受講者は２名でした。

実習では、資料の汚れを除去するドライクリーニング、補修用の糊作り、繕い、劣化した紙の裏全面に薄い和紙を糊で貼り付け補強する裏打ちなどの作業を行いました。

文書館企画展の開催

文書館では、令和３年10月から閲覧室前に展示スペースを設けて企画展を実施しています。

令和３年度中は３回開催しており、共通テーマは「北海道立文書館で閲覧できる資料展」で、各回のテーマと概要は次のとおりです。

第１回　「箱館奉行とその文書」

◎会期：令和３年10月８日(金)～11月30日(火)

◎内容：文書館開館以前から北海道が所蔵していた「簿書」と呼ばれる資料群と国指定重要文化財「箱館奉行所文書」について紹介し、箱館奉行の職務に関する資料などを展示しました。

第２回　「開拓使とその文書」

◎会期：令和３年12月１日(水)～令和４年１月27日(木)

◎内容：簿書の紹介は継続、箱館奉行所文書に代えて国指定重要文化財「開拓使文書」について紹介し、北海道命名や分領支配、移民に関する資料などを展示しました。

第３回　「開拓使とその文書　２」

◎会期：令和４年２月１日(火)～３月30日(水)

◎内容：開拓使文書部分の展示内容を変更し、開拓使十年計画や御雇外国人に関する資料を展示しました。

令和４年４月５日(火)からは、第４回「旧記にみる北海道」をテーマに開催しています。

当館所蔵の「旧記」と呼ばれる資料群の概要と、いくつかの具体的な事例を紹介する内容です。

また、７月から北方資料室との連携展示を、9月には道庁本庁舎１階の道政広報コーナーでの展示を予定しています。

詳細については別途お知らせしますので、ぜひ会場にお越しください。

令和3年度私文書の寄贈について

文書館では、「資料の現地保存」の考え方に基づき、私文書の収集は積極的に行っていませんが、散逸が危惧されるなど特別な理由がある場合、個別に検討した上で収集することがあります。

令和３年度に私文書の寄贈に関する相談が何件かあり実際に収集しましたが、その中からまとまった量の寄贈を受けた２件の資料群について概要を紹介します。

◎大槻家関係資料

道庁職員だった故大槻庄三郎が収集・保存した資料で、数量は段ボール55箱、大型資料４包です。

資料を寄贈してくださったご子孫の方の話では、大槻庄三郎は道庁で測量関係の業務に携わっていたとのことで、当館所蔵の公文書資料「市街宅地図石狩国雨竜郡幌加内村字蕗ノ台」（1946（昭和21）年）に調査者として名前が記載されています。

資料は、町名地番改正見出帳や改正関係図面地番改正調書など地番改正関係資料、北海道庁拓殖部殖民課作成の地図目録、その他殖民区画図や土地整理図、開拓使期の地図などがあり、大槻庄三郎が業務の参考として収集したものと思われます。

◎高倉新一郎家関係資料

北海道大学名誉教授・北海学園大学名誉学長の故高倉新一郎旧蔵の資料で、ご子息の嗣昌氏から寄贈を受けました。高倉新一郎は、北海道史研究の第一人者といわれる人物で、著書も多数あり、『新北海道史』の総編集長を務めました。

資料の数量は、段ボール130箱になります。

現在のところ資料の内容については、①道文化財保護審議会委員など新一郎の公職の活動に関する資料、②新一郎が執筆した著作物の自筆原稿や校正原稿、執筆のために収集した資料、③書簡等新一郎個人の活動に関する資料や父安次郎・祖父重助など高倉家に関係する資料、の３つのまとまりで把握しています。

形態も様々で、紙の資料のほか、写真やフィルム類、カセットテープがあります。

これら２件の文書については、大量にあることもあり、全体の整理にはかなりの期間を要すると予想されるので、目録作成が終わったものから一部でも利用ができるようにしたいと考えています。

古文書あれこれ～米国戸籍彦蔵（Joseph.Hico）採用ノ件～

開拓使では、旧幕臣やお雇い外国人などさまざまな人々が働いていました。人材の確保に関しては、1870（明治３）年に開拓次官（実質的なトップ）となり、北海道の開拓事業を推進した黒田清隆の手腕によるところが大きかったと言われますが、上手くいった事例ばかりではありませんでした。今回紹介するのは上手くいかなかった例の一つです。

1872（明治５）年５月10日、開拓使は、「彦蔵」なる人物を採用したいので、至急の上京を促すよう外務省へ依頼しました。

外務省　　黒田開拓次官
　御中
昨日於正院御相談致し置候長崎罷在候彦蔵儀、
弥当使へ採用致し度候間、至急出京相成候様、
彼地へ御掛合被下度、此段及御依頼候也
　壬申　五月十日

文書中に「於正院御相談致し置候」とあることから、恐らく黒田清隆が直々に依頼したものと思われます。外務省からはその日のうちに、彦蔵は「米国戸籍」なので領事館に掛け合った上で本人に連絡する、という回答が寄せられました。

ここにみえる「彦蔵」とは浜田彦蔵といい、米国領事館通訳として、幕末における日米修好に貢献し、「新聞の父」といわれた人物です。

1837（天保８）年に播磨国（現兵庫県）に生まれた彦蔵は、1850（嘉永３）年江戸に向かう途中遠州灘で暴風雨に遭い、米国船に救助され渡米しました。1854（安政元）年には、洗礼を受け名をジョセフ・ヒコ（Joseph.Hico）と改め、その４年後に日本人で初めて米国に帰化しました。

彦蔵は、通訳のほか、長崎や神戸での貿易や日本初の民間新聞「海外新聞」の発行に携わるなど幅広く活動しました。前掲の文書から1872（明治５）年の時点では、長崎にいたことがわかります。

開拓使が彦蔵に任せようとしていた仕事はお雇い外国人の通訳と補助で、給料は年俸にして3,000～3,240ドルを予定していたようです。

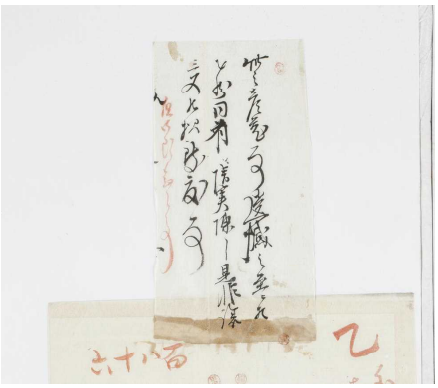
当時お雇い外国人の年俸の平均は2,600ドル前後だったようで、開拓使としては、「米国戸籍」である彼に外国人と遜色ない待遇を用意したのでしょう。

５月の末に、外務省から彦蔵が東京に向かうとの連絡があり、開拓使に出仕すると思われたのですが、7月24日付けで外務省から来た次の文書には、開拓使にとって予想外の事態が記されていました。

（前略）右彦蔵義此程出京大蔵省より御用召二て到着、又工部省よりも御用召之達し到来、尤当省よりも御用之達承知致し候得共、其前大蔵省之打合を承知いたし候義之旨申出候、就而は大蔵省御雇入相成候上は、当省之取計方難出来候間、此段御承知有之度候也。（後略）

彦蔵は開拓使のためではなく、大蔵省からの「御用召」に応じて上京したのでした。文書によると、彦蔵には工部省からも引き合いがあり、最終的には開拓使の前に話のあった大蔵省に雇われることとなりました。

開拓使はすげなく袖にされた訳ですが、それでも彦蔵採用にこだわったようです。外務省からの文書に貼られた付箋には、「（前略）乍　然同省へ情実陳し是非譲り受け候様致度事」として交渉継続の指示が記載されていました。しかし、付箋にはさらに「但御断念之事」と朱書されており、結局採用は実現しなかったことがわかります。



彦蔵は、大蔵省で「国立銀行条例」編さんに関する業務に携わりました。日本の金融制度の基礎を定めたこの法律は、米国の全国通貨法をモデルとしており、大蔵省は日米双方の国情に通じた彼の能力を必要としたのでしょう。彦蔵としても、開拓使の示した通訳という仕事よりも自分の能力が生かせると思ったのかもしれません。

※本文の史料は、すべて「開拓使公文録　原稿」（簿書5716　件番号63）から引用しました。

【参考文献】
近盛晴嘉『人物叢書　ジョセフ＝ヒコ』
原田一典『お雇い外国人　13　開拓』
国史大辞典編集委員会編『国史大辞典』第5巻

（文書専門員　石川　淳）

文書館資料検索システムの更新

令和４年２月に文書館の資料検索システムが更新され、画面のレイアウトも大きく変わりました。

更新された点はいくつかありますが、そのうちの一つは、公文書件名検索が公文書検索と統合された点です。資料名と件名の両方を対象にキーワードで検索でき、結果を同一画面で一覧できます。

その他、デジタル画像を公開している資料については、検索結果中に画像が表示されるなどの機能が追加されました。詳しくは改めてホームページ等で紹介したいと思います。

なお、システム更新に伴ってURLが変更されているので、お気に入り登録をしていた方は、文書館トップページから資料検索へと進み、改めてお気に入り登録してくださるようお願いします。

調査研究事業報告書第5号の発行

令和４年3月に『北海道立文書館調査研究事業報告書』の第５号を刊行しました。

当館職員が執筆した次の３本を収録しています。

◎「購入『北蝦夷地日魯交渉関係文書綴』について」

◎「明治初期北海道における『画工』関連資料について」

◎「高倉新一郎家関係資料の受贈について」

報告書は、道内市町村図書館や資料保存機関などに配布するほか、行政情報センター（道庁別館３階）で有償頒布しますので、ぜひご覧ください。

アーキビスト認証について

令和２年度から独立行政法人国立公文書館により開始されたアーキビストの認証に、令和３年度は当館の石川淳が申請し、認証されました。

令和２年度に認証された２名と合わせ、合計３名が認証アーキビストとなっています。

令和４年度の主な行事予定

《古文書解読講座》

◎入門　令和４年５月22日（日）

◎初級　令和４年６月19日（日）

場所：いずれも道立図書館研修室

※中級も開催する予定ですが、日程、内容など詳細は別途ホームページ等でお知らせします。

《施設見学会》

5月31日（火）、７月29日（金）、９月30日（金）に実施します。内容は各回とも同じです。

《文書館利用講座》

所蔵資料の概要、検索・利用方法に関し案内する講座です。

◎箱館奉行所文書の探し方　6月30日（木）

◎開拓使文書の探し方　8月31日（水）

◎国有未開地処分法完結文書の探し方　10月28日（金）

場所：文書館閲覧室

このほか、令和４年度も古文書教室、文書等保存利用研修会、文書等保存利用研修会（補修）の開催を予定しています。日程、内容など詳細は別途ホームページ等でご案内します。

北海道立文書館　〒069-0834　江別市文京台東町41番地１

■電　話　011-388-3001、3002　ＦＡＸ　011-386-6787

■Ｅメール　somu.monjyo1@pref.hokkaido.lg.jp

■ＵＲＬ　http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sm/mnj/

■Facebook　@archivesofhokkaido　Twitter　@HKD_Archives

■交　通

・ＪＲ函館本線　大麻駅南口から徒歩9分

・ＪＲ北海道バス・夕鉄バス　大麻駅南口停留所から徒歩9分

・駐車場　文書館前3台、図書館前35台（連絡通路あり）

■開館時間　９時から17時まで

※6～8月の毎週木・金曜日（月末休館日を除く。）は19時まで

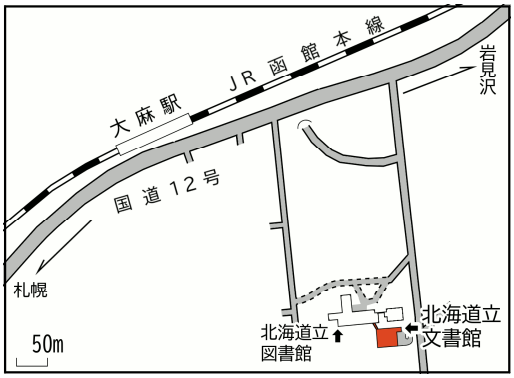
■休 館 日

・月曜日（月曜日が国民の祝日の場合、その直後の平日）

・毎月末日（休日、月曜日、土曜日及び日曜日の場合は、その直前の平日。12月は28日）

・年末年始（12月29日～翌年1月3日）

・蔵書点検期間（年１回、10日間程度。期間についてはホームページ等でお知らせします。）



赤れんが　北海道立文書館報　第 57 号　2022（令和４）年４月発行　編集・発行　北海道立文書館